



大藏省

佛蘭西政令上帙卷之四

四
一



114
A2790
4

佛蘭西政令上帙卷之四



第一篇下

州知事評議所

州及里ノ組立ノ原法タル第八年兩月廿八日ノ
法則ヲ以テ州知事評議所ヲ設立シタリ
此法ハ前ニ述タル執行ハ一人ノ業評議ハ数人
ノ業ト云フ格言ヲ憑據トシテ精密ニ三職ヲ分
ツ即チ執行事務評議事務聽訟事務ナリ
州知事評議所ハ裁判役ノ職ヲ任シ重大ナル事
件ヲ裁判ス又政令上ノ後見職ヲ任シ諸里ニ訴

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大藏省

大藏省
訟ヲ起スヲ許ス

是ヨリ以下州知事評議所ノ組立及職ヲ續キ説
ク可シ

組立

評議所ノ組立評議役ノ任除退職

第八年兩月廿八日ノ法ニ從ヒ知事職ニ三級ア
ル如ク評議所ニモ亦三級アリ此法ノ行ハレタ
ル頃ハ州知事評議役ハ州ノ大小ニヨリ三人或
ハ四人或ハ五人ヲ以テ組立タリ

千八百六十五年六月廿一日ノ新法ヲ以テ州ノ

大小ニヨリ三人或ハ四人ヲ以テ組立テセーシ
州ノ評議所ハ八人ヲ以テ組立タリ

評議役ノ役料ハ知事ノ役料ノ十分一ニ定メタ
リ即チ知事ノ階級ニ從ヒ評議役ノ役料モ亦三
級ニ分チ四千フランク三千フランク或ハ二千
フランクナリセーシ州ニ於テハ一萬フランク
ヲ給與セリ

評議役ノ任除廢退ハ國主ヨリ之ヲ命ス

評議役トナルニ必要ナル件々

千八百六十五年六月廿一日ノ法律以前ハ別ニ

定マリタル定規ナシト雖モ此法以來評議役ト
ナルニハ年齢二十五歳ニシテ法学ノリサンシ
エノ級ニ居ルカ或ハ政令若シクハ司法ノ官
ニ於テ十年間俸ヲ受ルノ職ニ居タルカ或ハ州
會ノ員タルモノカリ長ノ職ヲ勤ノタルモノニ
限レリ
諸種ノ法令ヲ以テ州知事評議役ノ職ハ司法ノ
官職記録役代言人州會議員郡會議員里會議員
里長或ハ副里長ノ職ト兼勤ス可ラサルヲ布
令セリ

千八百六十五年六月廿一日ノ法ハ規則ヲ立テ
州知事評議役ノ職ハ他ノ官吏及ヒ職業ニ因リ
其職ト兼又可ラサル事ヲ定メタリ故ニ代言人
ハ已レノ職業ヲ行ヒナカラ州知事評議役ヲ兼
又可ラス

評議所ノ會合及ヒ評定

州知事ハ其評議所ノ議長ニシテ投票匹敵スル
時ハ州知事ノ組シタル方ヲ取ル尤セイン州ノ
評議所ハ此例ニ非ス如何トナレハセイン州ノ
評議所ハ兼テ別ニ議長ヲ置キ且ツ二區ニ分テ

ハナリ

セーシ州ヲ除キテ他ノ諸州ニ於テハ州知事ノ不在或ハ故障アル時ハ評議所ニ首坐ス可キ議員ヲ年々帝ノ制誥ヲ以テ預メ示シ置クナリ評議所出席ノ員數知事ヲ并セテ少クモ三人ニ滿タザレハ評定ス可ラズ

投票匹敵スルカ或ハ出席議員ノ不充分ナル時ハ此出席ノ議員ヨリ指示シタル州會議員ヲシテ其闕ヲ補ハシム若シ事故アリテ總議員闕席スレハ之ニ代ラシム可キ州會議員ヲ内務長官

ヨリ指示ス

州會議員ヲ撰ヒテ代ラシムルニハ司法ニ屬スル裁判所ノ員ヲ撰フ可ラズ蓋シ政令ノ權ト司法ノ權トヲ區別スルノ原則ヲ固守スルカ為メナリ

千八百六十二年十二月三十日ノ制誥ヲ以テ聽訟事務ニ付テ三箇ノ新件ヲ加ヘタリ

千八百六十五年六月廿一日ノ法ヲ以テ此新件ヲ再記シ以テ之ヲ確定セリ此新件ハ千八百三十一年以來國議院ノ為メニ立タルモノト等シ

ク集會ノ公明ナル事及ヒ口舌ヲ以テ陳述スル
事及ヒ國代ヲ立ル事ナリ

然レモ唯里及ヒ歳入三萬フランクヲ越エサル
慈惠ノ建設ノ收納役ノ會計ニ付キ評議所ニテ
正定スル時ハ傍聞ヲ許サズ蓋シ此事件ニ付キ
テ上告ヲ受ルノ任アル統計官ニ於テ勘定役ノ
諸勘定ヲ裁判スルニ傍聞ヲ許サ、ルカ故ニ上
告裁判所ニ於テ傍聞ヲ許サ、ルニ初審裁判所
ニ於テ之ヲ許スヲ欲セサルカ故ナリ

國代ヲ勤ムルモノハ總書記及ヒ州廳ニ屬シタ

ル國議院ノ得業生ナリ總書記ハ國代ノ職ニ居
リテハ聽訟事務ニ付キ已レノ意見ヲ述ブ
評議所ニハ州廳屬吏ノ中ニ撰ヒテ州知事ノ命
スル所ノ書記一人アリ

國議院ト違ヒ評議所ハ聽訟事務ノ為メニ未タ
訴訟ノ規則アラズ然ルニ千八百六十五年六月
廿一日ノ法ニ云フ五々年ノ期限内ニ其レカ為
メニ法ヲ設ク可シト此法ノ未タ設ケアラサル
間ハ依リニ訴訟ノ大体ノ規則ヲ制詰ヲ以テ定
ム可シト

十八百六十五年七月十二日ノ制詔ハ訴訟ノ受
方事務ノ辨理方及ヒ其裁判ニ拘ハリテ一般ノ
規則ヲ記セリ
評議役ハ人々各得ル所ノ免許アリ故ニ評議役
ハ仮ニ知事ニ代シ得可ク又州知事ノ代トナリ
テ郡知事ニ代シ得可ク募兵ノ吟味所ノ負トナ
リ及ヒ亦州知事ニ代リテ之レニ首坐シ得可シ
前ニ説ク如ク國ト州トノ間ニ於テ争訟アル時
ハ州知事ハ國ノ代トナリ評議所ノ古老負ヲシ
テ州ノ代トナラシム

職

評議所ハ聽訟事務職及ヒ政令事務職ヲ任シタ
リ
千八百六十五年迄ハ評議所ハ此兩職ヲ或ル時
ハ獨斷ノ權ヲ以テ行ヒ或ル時ハ唯意見ヲ述ル
ノミニテ決定ヲ州知事ニ讓レリ
千八百六十五年六月廿一日ノ法ヲ以テ聽訟事
務ニ付キテハ悉ク獨斷ノ權ヲ以テスル事ヲ許
セリ此法ハ聽訟事務ニ付キ州知事ヨリ評議所
ノ意見ヲ聞キ州知事ノ決定ス可キ件々ヲ指示

ニタリ

是ヨリ以下評議所ノ職ヲ三種ニ分テ説ク可シ
一ハ聽訟事務職一ハ獨斷ヲ以テス可キ政令事務職一ハ草案ニ意見ヲ述ルノミノ政令事務職聽訟事務ノ職ヲ説クニ至リ從來意見ノミヲ述ヘタル三件ヲ示ス可シ

聽訟事務職

第八年兩月廿八日ノ法ヲ以テ評議所ヲ設クルハ裁判ノ職ヲ為サシメシカ為メナリ依テ前ニ説キタル如ク評議所ヲ以テ通法ノ裁判役ト見

做ス可キカノ論起レリ然ルニ政令事務ノ裁判ハ元采長官ニ歸スト云フハ一般ノ公論ナリ此説ノ據ル所ハ長官ニ付キテ説キタル時ニ云ヘル如ク第一ニハ先例第二ニハ第八年兩月廿八日ノ法ノ个條ヲ引ケリ此法ニ評議所ニ於テ決定ス可キ件々ハ別段ニ算ヘ上ケタリ
評議所ノ裁判ハ民事裁判ト大ニ異ナル所アリ評議所ノ適當 権ハ訴訟ヲ起スニ至ル事件ノ生シタル全州ニ被及スルナリ事件性質及双方住處ニ管スル事ナシ

評議所ハ決シテ終審裁判ヲ為ス事ナク且通法
ノ裁判ヲ為ス事ナシ
是ヨリ以下ハ第八年雨月廿八日ノ法ニ從ヒ評
議所ニ於テ決定ス可キ件々ヲ記シ而シテ後後
來ノ法律ヲ以テ評議所ニ適シタル件々ヲ記載
ス可シ

第八年雨月廿八日ノ法ヲ以テ規定スル聽
訟事務職

第八年雨月廿八日ノ法ノ第四個條ニ從ヒ評議
所ハ直稅公業大道國領地ノ事件ニ付テハ適當

ナリ今茲ニ此數件ヲ說ク可シ

直稅

評議所ハ左ノ件々ニ付テ評定ス

第一平人ヨリ出シタル配賦稅ノ弃捐及減省ノ
願

此願ハ權利ヲ害サレタルノ理ヲ以テス即チ
出稅スルノ理ナキカ或ハ法外ニ出稅ヲ命セ
ラレタルノ理ヲ以テ願出ルナリ

此願ハ情ヲ以テスルノ請求ト反体スルモノ
ナリ如何トナレハ情ヲ以テスルノ請求ハ不

幸ナルニ因テ已レニ配賦サレタル出額ヲ拂
ハサルカ或ハ出額中ノ部分ヲ拂フカノ憐愍
ヲ受ル為メ一州知事ニ當テタル歎願ナレハ
ナリ

第二不相當ニ配賦シタル賦稅ヲ廢棄スル事ヲ
受取役ヨリノ願

第三地稅及牖戶稅ニ拘リ所有轉移ノ願

第四檢地事件ニ付地位定メノ處置ニ對シテ起
レル訴訟

第五所有地記載ノ願

其他明細ナル事ハ稅ヲ説クニ至リテ了知ス可
シ

公業

公業ハ國或ハ州ニ於テ起シタル工業ノニ非
ズ里或ハ官許ノ工業會社ニ於テ起シタル工業
モ一箇ノ私利ニ関スルニ非ス公益ニ関スル時
ハ亦公業ニ屬ス

諸工業ノ公業ノ名ヲ受クルハ施ス所ノ物ニ拘
リテ云フニ非ス其事業ノ目的ヲ以テ公業ノ名
ヲ受ク依テ公業ヲ起ス所ノ地公有私有ヲ區別

セス住民一般 公益ヲ擴充スル為メニ公用ニ
充ルノ目的ヲ以テ起シタルモノハ皆公業ト名
ツク
里ニ於テ起シタル工業ノ為メニ曾テ夥多ノ議
論アリ
甲ハ曰フ里ニ於テ起シタル工業ハ公業ノ部ニ
加フ可ラズト此論ヲ主張スルニ左ノ各条ヲ引
ケリ

第一第八年兩月廿八日ノ法ノ文意ヲ引ケリ此
文意ヲ以テ見レハ道路取締ノ事ニ付國街道或

ハ州街道ノ如キ大道ニ關係スルニ非サレハ評
議所ニ適當セス

第二民法ノ六百四十九條及七百五十條ヲ引
ケリ此条ヲ以テ見レハ公用ト里ノ用トヲ區別
セリ

乙ハ曰フ里ノ工業全里ノ公益ヲ擴充スル為メ
公用ニ關スル時ヨリ始テ公業ノ部ニ加ハル且
公業ハ工業ノ用ヲ以テ定メ業ノ為メニ給スル
所ノ出額ノ原ヲ問フ可ラス此論ヲ主張スルニ
左ノ件々ヲ引ケリ

第一第八年兩月廿八日ノ法ノ文面ヲ引ケリ此
 之面ニ公用ノ階級ヲ立ツル事ナリ又道路ノ為
 ノニ立タル區別ヲ再ヒ記載セス
 第二沼地乾水ニ付キ出シタル千八百七年九月
 十六日ノ法ノ第三十條ヲ引ケリ此个条ニ里ノ
 工業ノ公業ニ屬スルモノヲ記載シタリ
 第三千八百四十一年五月三日ノ公用買上ケニ
 付キテ出シタル法ノ第三个条ヲ引ケリ此个条
 ヲ以テ見レハ又里ノ工業ニ公業ノ体面ヲ許セ
 リ

爭論ノ決定ハ終リノ論ヲ以テ是トシ國議院ニ
 於テモ千八百四十三年以來此論ヲ取り駁議裁
 判所モ亦千八百五十三年ニ於テ此論ニ從ヘリ
 國或ハ州ニ於テ起シタル工業モ里ニ於テ起シ
 タル工業ノ如ク一般ノ公益ヲ擴充スル為メニ
 公用ニ關係セサレハ公業ノ部ニ加ハラサル事
 了解セサル可ラス公用買上ケノ理ト同一理ナ
 リ
 然シ工業ヲ私有地ニ起シ殊ニ其目的トスル所
 全ク私有地ノ三ノ便利ノ為メナレハ之レニ付

キテ起レル争論ハ評議所ニ適當スル事ナク民
事裁判所ニ適ス

凡是等ノ事件ニ付キテハ評議所ノ適當ナル事
三種アリ適當スルノ權モ亦三頭ニ屬ス

評議所ハ左ノ件々ニ付キテ發言ス

第一公業ノ開業人ト政令官署トノ間ノ約束書
ノ意味或ハ其施行ニ付キ起レル争論

第二道路溝渠及ヒ其他ノ公業ノ為メニ充用シ
或ハ荒敗シタル私有地ノ為メニ平民ニ給ス可
キ償金ニ関シタル願及ヒ争論

充用ト云フ語ハ公用買上ケニ適シタル語ニシ
テ千八百三十三年ニ於テヰリヲ設ケタル以
來公用買上ノ償金ヲ定ムル事ハヰリニ屬シ
評議所ニ屬セスト雖モ第八年兩月ノ法中ニ用
ヒタル此充用ト云フ語ヲ今日猶土地ヲ仮リニ
取ル事ノ義ニ適用セリ

荒敗ト云フ語ハ平民ニ命シタル義務アルカ為
メニ州知事ノ許可ヲ得タル開業人ハ工業ヲ成
就スル為メニ土地ヲ荒敗シ及ヒ其地ニ在ル所
ノ物品ヲ取ルノ權有ラ云フ

荒敗ニ當リタル土地ハ州知事ノ決定書ヲ以テ
指示スベシ壁或ハ堀ニ等シキ圍ヒアル土地ヲ
荒敗ス可ラス

庭園菓木園ノ如キ住所ニ近キ土地ニ於テハ板
堀及ヒ藩籬等ハ壁ト同様ナリ

償金ハ用ヒタル土地ノ為ノニ拂フカ故ニ若シ
石切場等ノ既ニ他ノ開業人アル時ハ時相場ヲ
以テ買取ル所ノ物品ノ價直モ償金ノ内ニ加フ
可シ

償金ノ直積リハ命價人ヲ以テ為サシム大道工
業ノ時ハ命價人一人ハ所有主ヨリ命シ一人ハ
知事ヨリ命ス若シ仲裁ノ命價人ヲ要スル時ハ州
ノ工師ヲシテ其仲裁タラシム若シ別ニ開業人
アル時ハ命價人一人ハ所有主ヨリ命シ一人ハ
開業人ヨリ命ス仲裁ノ命價人ハ州知事ヨリ命
ス府下ノ工業ナル時ハ命價人一人ハ所有主ヨ
リ命シ一人ハ里廳ヨリ命ス仲裁ノ命價人ハ知
事ヨリ命ス

鄙郷道路ノ工業ノ為ノニ千八百三十六年五月
廿一日ノ法第十七个条ニ載ス命價人一人ヲ所

有主ヨリ命シ一人ヲ郡知事ヨリ命シ仲裁ノ命
價人ヲ州知事評議所ヨリ命スト

第三開業人ノ私ノ所業ヨリ生シ政令ノ所業ヨ
リ生スルニ非ル毀傷損害ニ付テ起レル平民ヨ
リノ訴訟

毀傷ノ語ハ人身ヲ毀傷スルヲ云フ損害ハ所有
物ヲ損害スルヲ云フ

此文面ハ開業人ノ私ノ處置ニノミ當リテ政令
ノ處置ヲ省クモノ、如クナレバ其實ハ然ラズ
假令毀傷損害開業人ノ私ノ處置ニヨリ政令ノ

所業ニヨラスト雖モ訴訟ヲ裁決スルハ州知事

評議所ニ適ス況ヤ工業ヲ起スヲ命セル政令ノ
所業ヨリ生セル損害ナレハ訴訟ヲ決断スル事

ノ評議所ニ適當ナル事ハ論ヲ待タサルナリ
第八年雨月ノ法ノ不都合ヲ畧紀ヲ以テ之ヲ説

ク可シ

此法ノ出ル以前千七百九十年ノ頃ハ政令ノ所
業ト開業人ノ所業トノ區別ヲ以テ裁判ニ區別
有リタリ政令ノ所業ノ為メニハ郡ノ主宰職之
レヲ裁決シ上告アル時ハ州ノ主宰職之ヲ裁決

セリ開業人ノ所業ノ為メニハ里廳ニ於テ裁決
シ上告アル時ハ郡ノ主宰職之レヲ受テ裁決セ
リ
郡及ヒ州ノ廳ヲ廢シ州知事評議所ヲ立テ裁判
ヲ州ニ統括シタル第八年兩月廿八日法ハ猶依
然トシテ其區別ノ証ヲ存シタリ
損害ノ為メニ償金ヲ出スハ其損害ノ現ニ當リ
タル物ノミナル事ヲ國議院ニ於テ希望セリ
評議所ノ決定ハ假損害ノ為メニハ適當ナリ譬
ヘハ土地ヲ暫時用ヒテ或ハ假リノ徑路ヲ作り

或ハ物品ヲ積置キタルヨリ起リテ地位ノ降等
スル事等ヲ假損害ト云
道路ヲ高低シ或製造所ノ水カヲ減少シ或消滅
スルカ如キ永久ノ損害ナル時ハ裁決ハ評議所
ニ歸スルヤ否
此論第八年兩月廿八日ノ法及ヒ千八百七年九
月十六日ノ法律ヲ以テハ疑フ所ナシ實ニ此項
ハ永久ノ損害ナルモ償金ヲ定ムル事ハ評議所
ニ適シタリ如何トナレハ此法ヲ以テ獨リ永久
ノ損害ノミナラズ物品採用ノ事ヲモ含蓄スル

所ノ公用買上ノ時ニ當リテモ償金ヲ定ムルノ
 権ヲ評議所ニ許シタレハナリ
 千八百十年ニ於テハ三月八日ノ法ヲ以テ公用
 買上ケテ發言シ買上ニ當レル所有主ニ給ス可
 キ償金ヲ定ムル事ノ権ヲ民事裁判所ニ歸シタ
 リ此法律以來永久損害ノ時事務ノ適不適ノ議
 論紛々タリ一ハ政令ノ官署即チ州知事評議所
 ニ適スト云ヘリ一ハ司法ノ官署即チ民事裁判
 所ニ適スト云ヘリ
 千八百三十三年 於テハ公用買上ノ時ニ償金

ヲ定ムル為ニハ「エリ」ヲ立タリ依テ永久ノ損
 害ノ為ニ事務ノ適不適ノ議論ニ新ニ又一ノ辭
 柄ヲ増シ永久損害ノ償金ヲ裁決スルハ「エリ」
 ナリト云フモノアリ
 千八百三十三年以來此爭論三派ニ分レタリ民
 事裁判所ニ適スト主張スルモノハ曰フ千八百
 十年ノ法ハ所有ノ権ヲ司法ノ官署ノ保護ニ置
 ケリ永久ノ損害ハ公用ノ買上ケニ非スト雖モ
 回復スベカラサル損害ヲ所有物ニ及ホシ所有
 ノ權利ヲ減少ス此權利ヲ償フハ實ニ司法ノ官

署ニ於テ定ム可キモノナリト
シリトニ適スルト主張スルモノハ曰フ永久ノ
損害ハ公用買上ト同様ナリ千八百三十三年及
七千八百四十一年ノ法ヲ以テ公用買上ノ時ニ
償金ヲ定ムルノ職ヲシリトニ托シタリ然レバ
永久損害ニ付決定スルモ亦シリトナリト之レ
カ為ノヲ河漁ノトニ付キテ出セル千八百二十
九年四月十九日ノ法ノ第三條ヲ引ケリ此个條
ニ云フ若シ河川ノ舟ヲ通シ筏ヲ流ス可キト公
布シタル時ハ河辺ノ住民ノ失フ所ノ漁業ノ推

利ヲ償フ為メニ住民ニ給スベキ償金ハ公用買
上ノ規則ニ從ヒ定ム可シト假令千八百十年ニ
於テハ此事ノ適スルハ民事裁判所タル事判然
タリト雖モ千八百三十三年以來ハシリト之レ
ニ代リテ其事ヲ知ルニ至レリト
評議所ニ適スト主張スルモノハ曰フ永久ノ損
害ハ公用買上ト同シカラス公用買上ハ物品ヲ
買上ケ所有ノ權ヲ奪フモノナリ第八年兩月廿
八日ノ法ノ文面ニ假損害ト永久損害ハ區別セ
ス又損害ノ期限償金ノ高ニ關係スルトモ期限

ヲ受ムルハ償金ヲ定ムルノ任ヲ受タル裁判役
ニ於テセス猶之ヲ確証スル為メニ鉄道取締ニ
付キ出セル千八百四十五年七月十五日ノ法ノ
第十条及ヒ火藥庫周圍ノ義務ニ付テ出シタル
千八百五十四年六月廿二日ノ法ノ第三条ヲ引
ケリ此法律文面ニ依レハ公ケノ安全ヲ謀リ鉄
道或ハ火藥庫ノ定限ノ境界中ニ設ケアル建設
掘植物物置等ヲ相當ノ償金ヲ拂ヒ取除ル事ヲ
政令ノ官署ニ許可シタリ此償金ノ内建設損害
ノ償金ノ三ヲ望ミ一ニ於テ定メ其他ノ償金ハ

千八百七七年九月十六日ノ法律ニ從ヒ評議所ニ
於テ定ムト

此論國議院ニ於テ同意セリト雖モ駁議裁判所
ハ司法ノ官署ニ屬スト主張シテ敢テ從ハズ千
八百五十年ニ於テハ此双方ノ職掌爭推ヲ裁決
スル為メニ爭權裁判所ヲ設ケ此裁判所ニ於テ
政令ノ官署即チ州知事評議所ニ適スト裁決シ
タリ故ニ千八百五十二年以來ハ駁議裁判所モ
亦此論ニ同意シ裁判ノ適不適ノ疑ヒナシ
若シ公業ヲ起シ私有地ニ損害スル事ナクシテ

却テ其土地ノ價ヲ増スニ至レル時ハ如何平民
ヲシテ増價ノ償金ヲ拂ハシム可キヤ

千八百七十九年九月十六日ノ法ニ載ルニ増價スル
時ハ代法制詰ヲ以テ償金ヲ拂フ事ヲ所有主ニ
命ス可シ然レモ此償金ハ増ス所ノ價ノ半高ヲ
起ユ可ラズ且ツ償金ヲ拂フニハ現金ヲ以スル
モ四分ツ、ノ割賦ヲ以テ漸次ニ拂フモ或ハ所
有地ノ一部分ヲ譲リ渡スモ所有主ノ好ニ任
ス可シ

増價ノ償金ハ千八百七十九年九月十六日ノ法ニ從

ヘハ國主ノ命スル七人ノ特別ノ委員ヲ立テ規
定セリ

若シ公業ヲ行ヒ損害ト増價ト同時一所ニ加ハ
ル時ハ其得失ヲ通算ス可キヤ

公用買上ノ時ニアラサレハ千八百七十九年九月十
六日ノ法ノ五十四條ニ從ヒ損害ト増價トノ得

失ヲ通算ス可シト國議院ニ於テ決定セリ
公用買上ノ時ニ當リテハ買上殘地ニ生シタル

増價ヲシテ於テ見積リ得可シト雖モ買上
ヲ受タルモノハ必ず償金ヲ與フ可シ

大道

大道ノ事件ニ付キテハ評議所ニ適スル事件ニ種アリ即チ民事及刑事ナリ

民事ニ付テハ往還ヲ侵占シタル事ニ付キテ裁決シ返地ヲ命シ及ヒ草木植藝ノ如キ大道ニ拘リタル義務ノ争論ニ付キテ裁決ス

刑事ニ付キテハ往還ヲ侵占シ樹木ヲ毀伐シ土石ヲ発掘スル如キ大道ノ違反及路線修正ノ規則ヲ犯シタル事ニ付キ刑ヲ言渡ス

往還ノ物品ヲ害シ及ヒ往還ノ障碍ヲ為ス如キ

ノ違反ニ謀作故造ノモノアリ過失註誤ノモノアリ此事件ヲ裁決スルニハ評議所ハ懲戒裁判所ノ職ヲ勤ム

大道ノ事件ニ付キ評議所ニ於テ刑事ノ裁判ヲ為スハ第十年花月廿九日ノ法ヲ以テ起セリ評議所ニ於テ言渡ス所ノ刑ハ千七百八十九年以前ノ規則ヲ以テ定メタリ千七百九十一年ニ於テアッサンブレールコンステテトーアントモ之ヲ保テリ

刑ハ禁獄罰金ヲニ法ナリ罰金ハ定罰金アリ不

定罰金アリ定罰金ハ其金額定リアルヲ云ヒ不
定罰金ハ其金額定リナク裁判役ノ意ニ任スル
モノヲ云フ

評議所ヨリ禁獄ヲ言渡ス可ラス且ツ裁判役ノ
意ニ任スル不定罰金ハ佛蘭西刑法ト相違スル
事ヲ多年來國議院ニ於テ豫メ知ル所ナリ
定罰金ハ金額重シト雖モ評議所ニ於テ命セサ
ルヲ得可ラズ然レモ國議院ニ上告スル事アル
カ故ニ國議院ニ於テハ法ヲ在クル事ナクシテ
之ヲ減シ得可ク如何トナレハ國議院ニ於テ草

按ヲ作り國主之レヲ許可シ國主ヨリ恩命ヲ為
スノ態ニナレハナリ

此裁判ノ仕方ハ不都合實ニ少ナカラズ不定罰
金ハ有罪ヲ寛恕スルノ助トナリ定罰金ハ罪人
ヲシテ國議院ニ上告セシメ莫大ノ裁判費用ヲ
負ハシム

千八百四十二年三月廿三日ノ法ハ定罰金ハ最
上額ヲ十六フランクト定メ二十分ノ一迄ハ減
少スルヲ許シ不定罰金ハ最上額ヲ三百フラン
クト定メ最下額ヲ十六フランクト定メタリ故

ニ不定罰金ノ最下額ハ懲戒裁判所ノ罰金ノ体
ニ當レリ如何トナレハ小道違反ノ為メニ警視
裁判所ヨリ言渡ス所ノ罰金ハ十五フランツヲ
以テ最上額ト定メタレバナリ
千八百四十二年ノ法律以後モ國議院ニ上告ア
レハ評議所ニテ言渡シタル罰金ヲ減シ警視裁
判所ノ罰金ノ最下額迄國議院ニ於テ減シ得ベ
シ此時ニ當リテハ國主ニ於テハ國議院ノ草案
ヲ許可シ恩命ヲ為シタルノ体裁ナリ
大道ノ違反ニハ警視ノ違反ノ規則ヲ當ルヲ國

議院ニ於テ裁決セリ

小道事件ニ付キテハ評議所ハ民事ノニ適シ
鄙郷道路ニ樹木ヲ植ルカ或ハ其他ノ仕方ニテ
之ヲ侵占シタル事ニ付キテ裁判ス然レモ刑事
ハ評議所ニ適セザルカ故ニ警視裁判所ニ於テ
刑法ノ四百七十九條第十一款ニ載セタル警視
ノ罰ヲ當ツ可シ此罰ハ十一フランツヨリ十五
フランツ迄ノ罰金ナリ

國領品

國領品ト云フ語ハ一般ニ國領ノ品物ヲ云フ然

レ氏亦一箇ノ意味ヲ以テ千七百九十三年革命
ノ頃國ニテ取上ケ及ヒ賣拂フタル品物ヲ指シ
テ國領品ト云ヘリ第八年兩月ノ法ハ此意味ヲ
區別セズ今茲ニ説ク所ノ國領ノ語ハ一般ノ意
味ト見ル可シ

此事件ノ評議所ニ適スルハ格外ノ事ニシテ全
ク國領品ノ買主ヲ安全ナラシムルノ主意ナリ
此事ニ付キテハ千八百十四年ノ法律ノ前後兩
期限ヲ分タサレ可ラス千八百十四年ノ法律以
前ハ評議所裁決ノ權ノ及フベキモノニ様アリ

タリ一ハ賣主タル國ト買主トノ間ニ賣渡シ約
定書ノ意味及ヒ施行ニ付キテ起レル爭論一ハ
原告人ヨリ賣渡シタル土地ノ已レニ所有ノ權
アルノ訴或ハ已レニ關係アルノ訴ニ付キテ裁
断ス

第八年ノ建國法ニ從ヘハ買主ハ所有ノ權ヲ失
フ事ナク原告人ハ償金ヲ國ノ金庫ニ求ムルノ
外他ナシ故ニ此頃ハ他人ノ物品ヲ國ニテ賣拂
ヒ所有ノ權ヲ移ス事往々アリタリ是ハ羅馬ノ
法律書中所有法ノ章ノ末条ニ著シタル羅馬法

ノ再興ナリ

千八百十四年ノ法律以後ハ此法律ヲ以テ没収
ヲ廢シタルカ故ニ他人ノ物品ノ賣渡シヲ受タ
ルモノヲ保護シタル第八年ノ建國法ノ个条ハ
自ラ消滅シ原告人ヨリ我カ所有ノ權或ハ其他
ノ重立タル權ヲ請求シ得ベキヲ衆人皆覺知
セリ此時ヨリシテ評議所ノ適當ノ權ハ賣主タ
ル國ト買主トノ間ノ賣渡約定書ノ意味或施行
ニ付キニ起ツタル爭論ノミヲ裁決シ得ベク所
有ノ權或ハ其他ノ重立タル權ヲ原告人ヨリ請

求スルノ訴ハ所有ノ權ノ裁判職タル民事裁判
所ニ適スル事ト決定シタリ

國ニ對シラノ訴訟ヲ民事裁判所ニ訴ルニハ前
以テ其手續書ヲ州廳ニ送ル可キノ式アルカ故
ニ此式ヲ行ヒタル後一个月ニシテ訴訟シ得ベ
シ此事件ニ付キテハ州知事ハ國ノ代人タリ
千八百十四年以來國ト買受人トノ間ノ賣渡証
文ヨリ起レル爭論ニ付キ評議所ノ適當ノ權ハ
減少シタリト雖モ猶取除キヲ存スルモノアリ
元來政令上ノ相對約束ヨリ生シタル爭論ハ民

事裁判所ニ適ス可キ筈ナルカ故ニ之ニ違フテ
評議所ニ存スル者ヲ取除キト云フ

然レハ評議所ノ適當ノ權ハ國領品ノ賣渡シニ
限ル可シ貸渡シニハ及フベカラス此故ニ河漁
ニ付キテ出セル千八百二十九年四月十五日ノ
法ノ第四ヶ条ニ貸渡シ約束ノ个条ノ意味及ヒ
施行ニ付キテノ爭論ハ司法ノ裁判所ニ訴フベ
シト記載セリ唯左ニ記スル件々ハ評議所ニ適
シテ即チ取除キト云フモノナリ

第一國ニ屬スル温泉場ノ貸渡シ

第二舟ヲ通シ筏ヲ流スベキ河ノ渡船ノ權利ノ
貸渡シ

第八年兩月廿八日ノ法律以後ノ法律ヲ以
テ定メタル聽訟事務職

第八年兩月廿八日ノ法ヲ以テ評議所ノ適當ノ
權ヲ前ヘニ記スル事件ノ外ノ事件ニモ及ホセ
リ
評議所ニ適當スル事件ノ内重立タルモノヲ左
ニ掲ク

分稅事件ニ付キテ起リタル爭論ハ元來司法ノ

官署ニ適スルモノナレトモ評議所ニ適スル所
ノモノモ亦アリ

第一組合 請負人ト里
トノ組合ニテ取立ル間税ノ取立人

ト里トノ間ニ間税ノ請取方及ヒ差配方ニ拘リ
テ起レル争論及ヒ約定書ノ意味ニ付キテ起レ
ル争論

第二介税取立組ト飲料商人トノ間ニ賣上ケ直
段ノ正否ニ付キ起レル争論

第三右ノ双方ノ賣上ケ税ニ代エバキ一期納メ
ノ税ノ高ニ付キ起レル争論

此三項ハ以前ハ評議所ヨリ州知事ニ意見ヲ述
ルノミナリシカ千八百六十五年六月廿一日ノ
法ヲ以テ聴訟事務ニ付キ州知事ニ意見ノミヲ
述ヘタル件ニテ更ニ獨断スルノ權ヲ評議所ニ
歸シタリ

危険ヲ包藏シ健康ヲ害シ便利ヲ妨クルノ建設
ノ事件ニ付キテハ後ニ至リテ明細ニ記載スベ
シ
會計ノ事件ニ付キテハ既ニ統計官ヲ説ク時ニ
云ヘル如ク評議所ハ歳入三萬フランクヲ越ヘ

サレハ里ノ請取役病院ノ出納役及ヒ其他慈善
ノ建設ノ出納役閣稅請取役小学ノ會計役及ヒ
官許工業會社ノ會計ニ付テ初審裁判ヲ為ス
會計事件ニ付キ注意ス可キ事ニツアリ一ハ
評議所評定ノ公明ナラサル事一ハ國議院ニ
上告セズ統計官ニ上告スル事
州及ヒ里ノ撰舉事件ニ付キテハ既ニ云ヘル如
ク撰舉 邪正ニ付テ起レル訴訟ハ評議所ニ於
テ裁決スルノ權アリ唯身分ニ関スル事ハ民事
裁判所ニ適ス

工業會社ノ事件ニ付キテハ此會社ヲ説クニ至
リテ明瞭ナル可シ
大道ノ事件ヲ説ク時ニ既ニ説キタル如ク第十
三年風月九日ノ法ヲ以テ鄙郷道路ヲ侵占シタ
ル事ニ付キテ裁決スルハ評議所ナリ尤民事ノ
三ナル可シ
千八百五十一年五月三十日ノ法ヲ以テ荷車取
締ノ違反ニ付キテ裁決スルヲ亦評議所ニ任セ
リ
礦山漁獵兵役及ヒ里ノ所有物ノ分配方等ノ事

件ニ付キテ裁決スルハ評議所ニ適ス

訴訟法

既ニ説キタル如ク千八百六十二年十二月三十日ノ制誥ヲ以テ聽訟事務ニ付キ評議所ニ於テモ千八百三十一年以來國議院ニ於テ為ス如ク裁判ノ公明ナル事口舌ヲ以テ論スル事及ヒ國代ヲ立ル事ヲ定メタリ

千八百六十五年六月廿一日ノ法ヲ以テハ評議所ノ訴訟ノ方法ヲ五ヶ年ノ期限内ニ法律ヲ作リ之ヲ規定シ此法ヲ作ル迄ハ假リニ代法制誥

ヲ以テ定ム可キ事ヲ記載シタリ

代法制誥モ法律モ未タ作ラズト雖モ然レモ千八百六十五年七月十二日ノ制誥ハ此原稿ト云フ可キモノニシテ豫メ方辨理方及ヒ裁判ニ拘ハル假リノ規則ヲ立テタリ此規則猶未充分ナラサルハ故ニ民事訴訟法及ヒ國議院ノ訴訟ノ方法ヲ規定シタル千八百六年ノ制誥ヲ以テ完備ス可シ

願方

願ヲ受理スルニハ呼出状ヲ用ユルニ及ハズ願

書ハ証印紙ニ書シ評議所ノ議長タル州知事或
ハ評議役ニ宛テ出ス可シ
撰舉事件ノ願書ナレハ印紙ヲ用フルニ及ハ
ズ直税事件ナレハ三十フランクノ高ヲ越エ
ルニ非サレハ印紙ヲ用ユルニ及ハス
願書及ヒ手續キ書ハ証書ト共ニ評議所ノ記録
ニ差出シ直ニ之ヲ順番帳ニ書記シ到着ノ日ヲ
記シタル印紙ヲ帖シ置ク可シ

辦理方

州知事或ハ之ニ代ル評議役ハ上申役ヲ指示シ

事件ノ諸書ヲ二十四時間ニ之ニ付與スベシ
上申役ハ辦理ノ方法ヲ定擬シ評議所ニ其方法
ヲ演フ評議所ハ此上申ヲ聞キ双方ニ通達スバ
キ違書ヲ規定シ通達ス可キ期限ヲ定メ及ヒ答
辦ス可キ期限ヲ定ム

評議所ノ裁決ハ政令ノ式ヲ以テ双方ニ通達ス
答辦ヲ為スヲ達シタル時双方ヨリ公明ニ口舌
ヲ以テ争辨スルノ推ヲ用ヒント欲スルヤ否ヤ
ヲ報知ス可シ
双方ニ達スルハ記録ニ於テ之ヲ為ス

評議所ニ於テハ民事ニ於ル如ク詮議及双方ノ
自親出庭及事件ニ付キテノ糾問及誓ヲ為スヲ
命ニ得可ク又國議院ニ於テ為ス如ク諸文書ヲ
確定スルヲ命ニ得ベシ然レモ若シ爭論中ニ不
實アルカ或ハ身分ノ不明ナル事アレハ民事裁
判所ニ送ルベシ
違戾ニ付キテ法律ヲ以テ規定シタル定則アラ
サレハ左ノ如ク處置ス
事件ノ完備シタル時ニ上申役ハ上申書及ヒ決
定按ヲ作ル

上申書及ヒ決定按ト共ニ諸文書ヲ記録書記ニ
渡シ記録書記之ヲ直ニ國代ニ渡ス
國代ノ發意ニ依テ州知事或ハ之ニ代ル評議役
ハ每會ノ名簿ヲ定ム
口舌爭論ノ權ヲ行フヲ求メタルモノハ事件
ヲ公明ニ討論セシム可キ日ヲ書簡ヲ以テ其本
人或ハ代人ノ住所ニ報知スベシ此報知ハ遅ク
モ會合ノ四日以前ニ為ス可シ
違戾ノ決案ヲ作り或ハ之ヲ確定スル事アル時
ハ其確定書ヲ作り五日中ニ州知事ハ政令上ノ

或ヲ以テ此ニ書ノ寫シヲ呼出狀ト共ニ犯人ニ
通達セシムベシ
呼出狀ハ犯人ニ通達シタル日ヨリ十五日間ニ
答辨書ヲ出スヲ犯人ニ命シ且口舌ヲ以テ論ス
ルノ推ヲ用ヒント欲セハ之ヲ報知スルヲ命
スルモノナリ
通達書及呼出狀ヲ作り之ヲ郡知事ニ送ル郡知
事ハ之ヲ評議所ニ返サシムル為メニ州知事ニ
送ル上申役ハ是等ノ式ヲ全フスルヤ否ヤヲ証
ス

裁判

評議所ニ於テ作ル所ノ聽訟事務ノ決定書ハ公
明ニシテ裁決シ及ヒ國代ノ論說ニ從ヒ決定シ
タル事ヲ記ス
決定書ニハ双方ノ名前及論說及重立タル証據
書ヲ驗真シタル事及之ニ當ツ可キ法律ノ个条
及決定ノ道理及裁判ニ列シタル人名ヲ記ス
本書ハ議長上申役及ヒ書記調印シ辨理方ニ拘
ハル諸書ト共ニ記録ニ備ヘ置キ寫シヲ簿書ニ
留ム

決定書ヲ双方ニ渡スハ書記ニ於テ為ス
評議所ノ決定ハ司法裁判ノ書ト権カヲ等シク
スル者ニシテ之ヲ行フニ要式ナク收納抵當ノ
推ヲ俟フルモノナリ
決定ヲ行フ以前ニ通達ヲ要ス此通達ハ平民ヨ
リ平民ニ通達スルカ或ハ平民ヨリ政令ノ官署
ニ通達スル時ハ使吏ニテ之ヲ行フ若シ官署ヨ
リ平民ニ報知スル時ハ官署ノ属吏或ハ政令ノ
文書ヲ以テス

破壊ノ道

評議所ノ決定書ヲ破壊スルノ道左ノ如シ
抗傳シテ決定ニ悖フ事即チ答辨書ヲ出サ、ル
時ヲ云フ
評議所ノ決定ノ引戻シヲ請求スル事
是ハ裁決ヲ行フ並ハ受理ス可ク且決定ノ施
行ヲ止ムベシ
双方吟味ノ決定抗傳ノ決定ニ對シテ上告
抗傳ノ決定ハ引戻ノ請求ヲ受クル事ナシ
上告ハ決定書ノ報知ヨリ三ヶ月間ニ為スベシ
上告ハ國議院ニ為ス可ク上告ヲ以テ裁決ノ施

行ヲ止ムルヲ得ズ尤州及ヒ里ノ撰挙ノ事件ニ
付キ評議所ニテ廢サレタル充換人ノ上告ハ此
例ニアラス

評議所ニ於テ歳入三万ヲラニクテ越エサル里
或ハ公用ノ諸建設ノ受取役及ヒ工業會社ノ勘
定役ノ勘定ニ付キテ決定シタル時ハ統計官ニ
上告ス此上告ハ決定ノ施行ヲ止メ得ベシ然レ
モ法律文言ニ觸ル、トイレハ此例ニ非ラス
旁告人ヨリノ悖ヒ

是ハ三十年間ハ受理ス可シ

評議所ハ終審ノ裁判ヲ為ス、トナキカ故ニ決定
書ヲ廢スルノ歎願ヲ出スヲ許サス且上告ノ許
シアルカ故ニ國議院ニ駁議ヲ請フ可ラス

獨權ヲ以テ處置スル政令職

此職ハ里及ヒ公用ノ建設ニ訴訟ヲ許可スルニ
アリ如此キ政令ノ後見人タルノ職ヲ里或ハ里
中ノ區ニ拘リタル訴訟ノ為メニ第八年兩月廿
八日ノ法ヲ以テ州知事評議所ニ歸シタリ猶夥
多ノ法ヲ以テ此職ヲ教育院慈惠ノ建設製造所
等ノ争訟ニモ推シ及ホセリ

意見ノミヲ述フ可キ政令職

此職ハ第八年兩月廿八日ノ法以後ノ法ヲ以テ
評議所ニ歸シタリ

評議所ハ知事ノ関スル諸事務ニ付キテ評定ス
其内最モ此評定ヲ必要トスルモノマリ然レモ
決定ハ常ニ知事ノ決定ニシテ評議所ノ決定ト
稱スルモノニ非ス評議所ニ於テスル知事ノ決
定ト稱ス可キモノナリ如何トナレハ知事ハ評
議所ノ意見ヲ或ハ容レ或ハ弃テ常ニ自ラ責ニ
任スレハナリ

評議所ノ意見ノミヲ述フ可キ件々ハ種々ナレ
モ其重立タルモノヲ左ニ掲ク

州治ニ付テハ左ノ如シ

不正ノ州會或ハ郡會ノ決定ヲ廢棄スル事

州會ニ於テ必須ノ費用ヲ州ノ入出簿ニ書キ加
ヘサル時知事自ラ之ヲ書キ加フル事

州ニ當テタル募兵ヲ邑毎ニ配當スル事

刑事ジリノ名簿ヲ作ル為メニジリノ人員
ヲ郡及ヒ邑ニ配當スル事

里治ニ付キテハ左ノ如シ

里會ノ職ニ非サル事件或ハ不正ノ會合ニ於テ
為シタル里會ノ評定ヲ廢棄スル事

正シク許可シタル里ノ費ノ仕拂ヲ命スルヲ里
長ノ拒ミタル時ニ之ヲ命スル事

里會議員ノ撰挙ノ時ニ諸里ヲ分ケテ撰挙組ヲ
設クル事

評議所ノ職ヲ略説スレハ之ニ歸スル所ノ職務
三職アリ

一 聽訟事務職

千八百六十五年六月廿一日ノ法律以後ハ

常ニ獨推ヲ以テ此職ヲ行フ

二 獨推ノ政令職

三 意見ノミヲ述べ得可キ政令職

第八年兩月廿八日ノ法則ニ後ヒ聽訟事務職ノ
綱領トスル所左ノ如シ

直税

是ニ付テハ重ニ減省及ヒ廢止ノ願ニ付テ
裁決ス

公業

是ニ付テ評議所ニ於テ裁決スル事件ハ第

一開業人ト官署トノ間ニ約定書ノ意味及
ヒ施行ニ付キテ起レル争論第二荒敷地或
ハ充用地ノ為メニ償金ノ額第三開業人ノ
私ノ處置并ニ政令ノ處置ヨリ起レル毀傷
損害ノ訴訟

大道

是ニ付テハ評議所ニ民事刑事両ナカラ適
スルモノアリ民事ニ付キテハ即チ往還ヲ
侵占シタル地ヲ返スヲ言渡ス事刑事ニ付
テハ即チ大道ノ違反ニ千八百四十二年ノ

法律ヲ以テ改正シタル舊來ノ定罰金及ヒ
不定罰金ノ罰ヲ言渡ス事

國領品

是ニ付テハ売主タル國ト買主トノ間ニ起
レル賣渡ノ争論ヲ裁決ス

危嶮ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スル建設
及ヒ州里ノ撰挙及ヒ會計及ヒ官許工業會社
等

是ニ付テハ第八年兩月廿八日以後ノ法律
ニ從ヒ裁決スルノ權ヲ評議所ニ歸シタリ

介税ニ関スル三件

是ハ従前ハ意見ヲ述ブルノミナシ千八百六十五年ノ法ヲ以テ裁決ノ權ヲ評議所ニ歸シタリ

獨權ヲ以テスル政令ノ職ハ里及ヒ州ニ訴訟スル事ヲ許スニアリ
意見ノミヲ述ベ得可キ政令ノ職ハ州知事ニ授示スルニアリ

第三篇

郡

郡ハ州里ト異ニシテ一箇ノ人ト見做ス者ニ非ス唯政令上ノ區分タル州中ノ一部分ナリ

郡ヲ廢シ邑毎ニ政令及ヒ司法ノ官署ヲ設ケ諸里ノ公益ヲ注意セシメバ事務ニ於テ最便ナルカ故ニ廢郡ノ論紛々タリ

千八百六十九年及ヒ千八百七十年ノ制法官院ノ時帝ノ関口ニ里ノ財用ヲ審締シ且ツ其用方ヲ指揮スル為ニ邑會ヲ起サント云ヘリ

州ノ一箇ノ人タル事ヲ規定シタル千八百十一

年四月九日ノ制誥ハ郡ニモ亦一箇ノ人タルヲ
認スル如ク見ヘタリ實ニ此制誥ヲ以テ郡ノ公
用ニ充テタル國領ノ建設ヲ所有スル權ヲ郡ニ
歸シタリ

沼地乾水ニ付キ出セル千八百七年九月十六日
ノ法ノ第二十八个条及ヒ二十九个条ニ郡ハ自
ラ一箇ノ理財及ヒ散財スルノ任ヲ為シ得ベシ
ト云ヘリ如何トナレハ此法ヲ以テ郡ニ或ル公
業ノ費ヲ給スルヲ命シタルハナリ
郡ノ一箇ノ人タル可キ事ヲ証セニカ為ノ種々

ノ法律文ヲ引タリト雖モ州會及ヒ郡會ノ職掌
ヲ規定スル所ノ千八百三十八年五月十日ノ法
律ヲ議論スル時ノ衆論ニ前ニ引ケル文面ハ實
ニ疑フ可キトアリト雖モ立法者ノ意ハ明ニ
シテ郡ハ州外ノ一箇ノ人タル事ヲ説クニ非ル
事ヲ云ヘリ仍テ千八百三十八年ノ法律以來郡
ノ一箇ノ人タルヲ得サル事確然タリ
郡ニ於テハ執行事務ハ郡知事之ヲ行ヒ評議及
ヒ聽訟事務ハ郡會之ヲ行フ

郡知事

郡知事ハ郡毎ニ各一人アリ但州ノ首府アルノ
郡ハ之ヲ除ク

郡知事ノ任除廢棄ハ州知事ノ如ク内務長官ノ
奏問ニ從ヒ帝之ヲ為ス郡知事ノ職ヲ奉スルニ
別ニ要件ナシ但州知事ニ擔ヲ為スノミ

郡知事不在或ハ故障アル時ハ郡會ノ員或ハ州
知事ノ指示シタル其評議所ノ員之ニ代ス

郡知事モ亦三級ニ分チ一級ハ八千フランクニ
級ハ六千フランク三級ハ四千五百フランクノ
俸ヲ受ク俸金ハ郡ノ大小ニ関スルノミニ非ス

同郡ニ在リテ五ヶ年ノ後ハ一級ヲ進ムルナリ

職

郡知事ハ執行事務ノ職ヲ專任トシ稀ニ聽訟ノ
職モ亦任セリ

政令職

郡治ノ主宰タル郡知事ハ法律ノ施行及ヒ安寧
ヲ守ルヲ注意スベシ元來郡知事ハ州知事ト里
長トノ間ニ立ツモノニシテ教示ヲ為スノ職ナ
リ如何トナレハ常ニ已レノ意見及ヒ教示ヲ州
知事ニ呈スレハナリ然レモ左ニ記スル場合ニ

於テハ獨斷ヲ以テ處置シ及ヒ決定スルノ權アルカ故ニ此例ニ非ス

第一州知事ヨリ郡知事ニ已レノ權ヲ委托シタル時

第二至急ナル時

第三法律或ハ規則ヲ以テ郡知事ニ獨斷ノ權ヲ與ヘアル時

千八百五十二年三月廿五日ノ制詔ヲ擴充スル為ニ出シタル千八百六十一年四月十三日ノ制詔ハ郡知事ニ左ノ權ヲ歸シタリ

民生証書ノ証印ノ極メ兵役ヲ逃ル、事或ハ家事ニ餘スルノ分ニ居ルト居ラサルトヲ定ムルノ為メニ死生貧窮行状ノ極メ往來証券獵免許ヲ渡スノ權假リニ飲料ノ賣粥ヲ許スノ權通常ノ作業及ヒ千フランクノ費ヲ越エサル里ノ建設ノ修理ヲ許可スルノ權

慈惠ノ官舎ノ為メニ出納簿及ヒ勘定十八年ノ期限ヲ越ヘサル請負証文ノ个条動産ノ買賣交易三千フランク以上ニ至ラス亦後日ノ求メモ無キ此官舎ニ送レル贈遺物ヲ受ルヲ許可スル

ノ權

閭稅取扱ノ手傳人ヲ命スルノ權

此數件ニ於テハ郡知事ハ其處置ノ為メニ州知事ニ對シ自ラ責ニ任ス州知事ハ其處置ノ法律及ヒ規則ニ背ケルカ關係アル双方ノ訴訟アルカヲ以テ其處置ヲ廢棄シ或ハ變換シ得可シ尤上司ニ上告シ得ベシ

千八百六十四年五月四日ノ法律ヲ以テ郡知事ニ大街道州街道及ヒ大鄙郷路ニ付キ路線修正ヲ命スルノ權ヲ許セリ尤既ニ許可シタル改正

ノ圖面アル時ニ限ル可シ

聽訟事務職

郡知事ノ関スル聽訟事務職左ノ如シ

第三級ニ含蓄スル危嶮ヲ包藏シ健康ヲ害スル建設ノ許可

是ニ付テハ州知事評議所ニ上告アリ

國內運送船ノ閭稅ノ請取方

是ハ評議所ニ上告アリ

若シ税金ヲ拂フ時稅則ノ當テ方ニ付キテ起ルル爭論ハ民事裁判所ニ於テ之ヲ裁決スルヲ知

ラザルベカラス

郡會

郡會ノ組立方及ヒ職掌ヲ規定スル所ノ法ハ州會ノ法ト異ナルヲナシ

組立方

郡會ハ郡中ノ邑數ニ相當スルノ人負ヲ以テ組立ルト雖モ九人ノ人負ヲ下ル可ラス故ニ右シ一郡ノ邑數九邑ニ滿タサル時ハ行政權ノ文書ヲ以テ住民ノ最多キ邑ヲ定メ其邑ニ於テ數員ヲ撰ハシム

郡會議員ヲ撰挙スル者ハ州會議員ノ撰挙人ナリ而シテ其式モ亦同様ナリ

郡會議員ト為ル可キ必用ノ件々ハ州會議員ト同様ナリ唯州ニ居住スルト税ヲ收メタルト要スルノ代リニ郡中ニ居住スルカ郡中ニ直税ヲ拂ヘルモノヲ要ス且ツ州會ノ為メニ規定シタル州ニ居住セサル議員ノ人負ハ總議員ノ四分一ヲ越ユ可ラサルノ制禁ノ如キハ郡會ニ於テハ要セス

州會議員ノ為メニ立タル兼勤ス可ラサル事ハ

郡會議員ニモ亦適シ一時ニ諸郡ノ郡會議員タルヲ得ズ

州ノ撰挙事件ノ聴訟事務ニ付キテ定メタル規則ハ郡會及ヒ里會撰挙ノ為ニモ亦同様ナリ

郡會議員ハ在職六年ナリ三年毎ニ半ヲ变换ス州會ハ在職九年ニシテ三年毎ニ三分一ヲ变换ス此变换ノ法方ハ兩會共ニ同様ナリ

郡會ハ州會ノ如ク年々常會アリ又非常會アリ然ルニ郡會ノ常會ハ二度ニ分チテ州會ノ會合ノ前後ニ各一會ス郡會ノ會合ヲ起スハ帝ノ制

詔ヲ以テシ議員ヲ召フハ州知事之ニ任ス

議長副議長及ヒ書記ハ州知事之ヲ命シ帝ノ制詔ヲ以テセズ

变换ノ期限ニ至ラサレヒ欠員アレハ之ヲ輔ハシムルノ方法ヲ既ニ州會ノ条ニ説ケリ此方法ヲ亦郡會ニ當ツ

州會ト郡會ノ組立ヲ比較シテ重立タル違ヒヲ茲ニ略説セシ

第一州會ハ邑ノ数ニ當ルノ員ヲ以テ組立ツ郡會ハ九員ヲ下ル可ラサルカ故ニ員数邑数ニ越

エル事アリ

第二州會ノ充撰人ハ州中ニ居住シ州中ニ直稅ヲ拂フタルモノヲ要ス郡會ノ充撰人ハ郡中ニ此兩件ノ一ヲ行フタルヲ以テ足レリトス

第三州會議員ハ在職九年ニシテ三年毎ニ三分一ヲ变换ス郡會議員ハ在職六年ニシテ三年毎ニ半ヲ变换ス

第四州會ノ常會ハ一度會ス郡會ハ二分シテ二度會ス

第五州會ノ議長副議長及ヒ書記ハ帝ヨリ命ス

郡會ノ議長副議長書記ハ州知事ヨリ命ス

職

郡ハ一个ノ人タルモノニアラサルカ故ニ郡會ノ職モ亦從テ狹少ナリ其職ヲ施スニ三種アリ一ハ評定一ハ意見一ハ建言

評定

郡會ノ評定職ハ但配賦直稅ノ事件ニアルノ郡會ノ常會ヲ二分スル所以ヲ茲ニ説ク可シ初メノ常會ニ於テ評定スル件々左ノ如シ第一郡ニ配當シタル配賦直稅ノ郡ノ持分ノ高

ヲ定ムル為メニ起レル訴

第二里ヨリ出セル同税ノ里ノ持分ノ高ヲ減省
スルノ願

次ノ常會ニ於テハ此兩會ノ間ニ會シタル州會
ニ於テ右ノ兩訴訟ヲ決定シタル時其決定ニ隨
ヒ常會ニ於テ郡ノ受持ヘキ配賦直税高ヲ諸里
ニ分配ス

意見

意見ハ或時ハ官署ノ問ニ應スルモノアリ或時
ハ自カラ發言スルモノアリ

問ニ應スルノ意見ニ亦必須ノモノアリ必須
ノモノアリ蓋シ官署ヨリ問ヲ必ス要スルモノ
ト又必シモ要セサルモノトアレハナリ然レバ
必須ニ必須及ヒ自カラ發スルノ意見ヲ區別セ
サル可カラス

千八百三十八年ノ法律第四十一個条千八百六
十六年七月十八日ノ法律第一一個条第七款ニ載
タル件々ハ必ス郡會ノ議ヲ經ヘキモノナリ其
重立タル件々左ノ如シ

郡邑及ヒ里ノ境界ヲ改ムル事

郡邑里ノ首市ヲ示ス事

大中鄙郷路ノ改正ノ事

大中鄙郷路ノ新開及ヒ永保ニ給スベキ里ヲ示ス事

大小市場ヲ起廢变换スル事

官署ニ於テ意見ヲ問ハント欲セハ問ヒ得ベキノ意見ヲ不必須意見ト云フ單ニ官署ニ教示スルノミノモノナリ

此ノ如ク意見ヲ區別シテ大ニ益アリ如何トナレハ意見ヲ問フヲ必要スルノ件々ヲ官署ニ於

テ前以テ問ハスシテ決定シタル時ハ推ヲ越ヘタルカ故ニ決定ヲ廢弁スルヲ求メ得ベク又聴訟事務ノ道ヲ以テ國議院ニ上告シ得ベシ郡ニ拘ハル諸件ニ付キテ郡會ハ自ラ意見ヲ奏言シ得可シ

建言

郡ニ拘ハル諸公務ニ付キ郡會ハ已レノ意見ヲ建言スルヲ法律ヲ以テ許シタリ
自發意見ト建言トハ同シカラス建言ハ直ニ議長ヨリ州知事ニ當ツ自發意見ハ郡知事ノ手ヲ

經テ以テ州知事ニ達スルモノナリ

大藏省

大藏省

